

竹棒にぶら下がり「残った。残った」——人間版「くも合戦」、こちら名物なんです 加治木高体育祭

9/9(火) 15:07 配信



南日本新聞社



鹿児島県始良市の加治木高校で6日、「くも合戦」があった。といっても戦うのは人間同士だ。

【写真】〈関連＝こちらがホンモノの「くも合戦」〉棒の上で激しい攻防を繰り広げるコガネグモ＝6月15日、始良市役所加治木支所

棒上で熱戦を繰り広げる生徒＝6日、始良市の加治木高校

地元の伝統行事を模して、体育祭の中で40年以上続いている名物競技。クモ役の生徒が長さ8メートルの竹棒にぶら下がり、担ぎ役のサポートを受けながら、足で激しく落とし合う姿に、会場は沸いた。クモ役で勝った坂口大知さん（3年）は「先生と立てた作戦がうまくって楽しかった」。

くも合戦は戦国武将の島津義弘が朝鮮出兵の際、兵士を鼓舞するために始めたとされる。400年以上の歴史を誇る国の選択無形民俗文化財で、日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」に登録されている